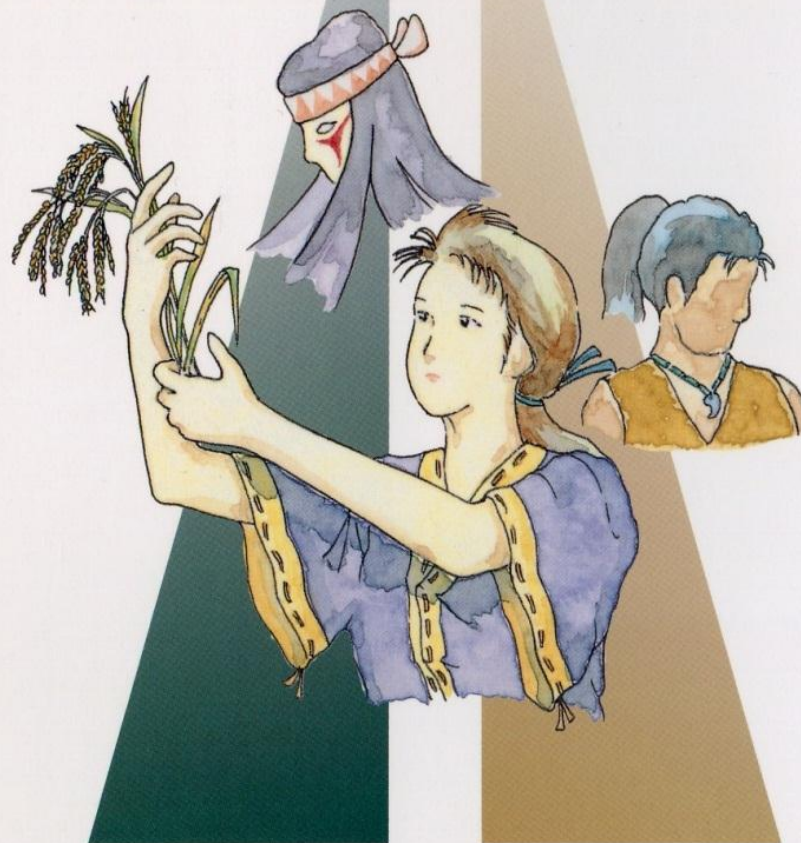


発行 豊中市教育委員会
1994年3月31日発行
編集 社会教育課文化財保護係
印刷 共同印刷株式会社
写真提供 (財)大阪文化財センター



とよなか文化財ブックレットNo.3 通史編Ⅲ



たがやす人びと

— とよなかの弥生ムラとコメづくり —

けんた ねえ、やよいちゃんの名前って「弥生時代」からと

ってるんだろ？

うん。お父さんがね、古代史ファンなのよ。

やよい いいなあ。

けんた 縄文時代の勉強の時にはけんた君にずいぶん教えて

もらったけど、今回はがんばるわ。

けんた では、やよい博士におたすねいたします。この地図

は何ですか？

やよい とよなかで見つかった弥生時代の遺跡の場所がわか

るようになってるの。縄文時代には北の方でしか見

つかっていなかったムラが南にまで広がっているの

がはっきりわかるわ。

とよなかでは弥生時代の遺跡が34か所で見つっている。たくさんあるよね。だけど全部が同じころにあったわけではないんだ。弥生時代の続いた、およそ2400年前から1800年前までの600年の間にムラの場所が移ったり、新しくやってきた人々もいたのでこんなにたくさん場所で見つかるんだよ。実際には同じころに3か所ぐらいのムラがあったんだと考えられている。中でも蛭池北遺跡（中国自動車道池田インターの東側）、新免遺跡（阪急電車豊中駅の西側）、勝部遺跡（大阪国際空港滑走路の南東側）、小曾根遺跡（緑地公園の南側）、穂積遺跡（阪急電車服部駅の西側）などに大きなムラがあったことがわかっている。左の地図の赤い印の場所だ。（白い印は他の弥生時代の遺跡）



弥生時代の海岸線

けんた とよなかにいた弥生人ってどこからきたの？

やよい 西の方からやってきたらしいわ。弥生人たちは海のむ

ごこの朝鮮半島や中国大陸から九州へもたらされた新

しい技術をとよなかへも伝えたのよ。

けんた 新しい技術？何それ。

やよい いろいろ。でもやっぱりおコメをつくる技術かな。

けんた ハハアーン。なるほどねえ。それでやよいちゃんくわ

しいんだ。よく食べるもんね。

やよい もう。わたしたちが今食べているおコメを最初につく

けんた りはじめた人々の話なんだから、まじめに聞いてよ。

ごめん。でも、弥生人たちはそれまでに住んでいた縄

やよい 文人とはケンカしなかったのかなあ。

うーん。きつとよなかくしたんでしょね。



弥
生
人

とよなかへ！

弥生人のすまい



たくさんある穴

蛭池北遺跡の竪穴住居は直径8mもある大きな家だ。屋根をささえる柱も6本あったと考えられている。でも写真にはもっとたくさんの穴があるぞ。おかしいな。

けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

これは何をしているところ？
発掘した地面に想像した家をたててみたの。
何だかやぶきの農家みたいだね。
そうね。
弥生時代には大工さんいかなかったのにこんな立派な家がたてられるなんてスゲー！
みんなで力をあわせてつくったのね。
住んでみたいなあ。入ってみるだけでいいや。
とよなかのすぐ西側で、尼崎市の猪名川ぞいに田能遺跡があるの。そこに竪穴住居を復元してあるから行ってみたらどうかしら。
よーし。



けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた やよい けんた

弥生人はどんな家に住んでいたのかなあ。
とよなかでもいろんなところで見つかっているのよ。
へえー。
竪穴住居っていうの。知らない？
ああ、聞いたことはあるよ。
地面に穴を掘って、その上に木を組んだだけなのに中とってもあつたかそう。
今の家の床は四角だけど、弥生時代はどんな形？
丸いものや、四角いもの、いろいろあるのよ。
ちよっとせまいような気がする。
そうね。わたしは広いリビングがほしいわ。
あーそー。

竪穴住居はどんな家？

このイラストはとよなかで見られるふつうの大きさの竪穴住居（写真の住居に見られる建築で、地面を掘りくぼめた上に丸木を組んで屋根をふいてつくりになっている。技術も進んだために屋根をささえる柱の本数もふつう穴がけられている。入り口は1か所で風向きや太陽の方向を考えて作っている）。写真の住居にはどうしてあんなにたくさんの穴があるのか。その理由は次

居よりひとまわり小さい）を復元してみたんだ。竪穴住居は縄文時代からふた簡単な構造の家屋。弥生時代のは縄文時代にくらべてどっしりとしたうの家では4本ぐらいいへった。床の中心には炉があり、屋根には煙出しのているようだ。なぜ、縄文時代よりもしっかりとした家をたてたのか。また、のページでやよいちゃんやけんた君といっしょに考えてね！



焼け落ちた竪穴住居

この大きな写真は豊中市の箕輪遺跡で見つかった弥生時代中期（およそ2000年前）の竪穴住居だ。直径およそ8mの大きな円形の家で、どうやら火事にあって焼けてしまい、そのまま埋まってしまったらしい。家の中には弥生人が生活していた当時のまま、たくさんの土器（たぶん食器に使ったもの）や木製の農具などが残されていた。また、焼け落ちた屋根の材木が竪穴のまわりから中心にむかってならんでいたことから、前のページのような形の家を想像することができる。燃えあがる自分たちの家を見て弥生人はどんな気持ちだったろう。でも弥生人はくじけない。すぐにまた新しい家をたてて生活をはじめた。そのあかしが発掘された住居に残っている。前のページや右の写真に写っている何本もの溝やたくさんの柱の穴は、こうしてたてかえられた後のものと古い家のものが重なって見つかっただけなんだよ。（ちなみに上の写真の中に十字の形をした直線があるけど、これは土のたまり方を調べるためのアゼで昔のものではないので注意！）



こわれたおわん

家の中に残されてあった土器。弥生時代のおわりごろのもの（およそ1800年前）。弥生人がこわれたのですていったのが、長年住みなれた家をはなれるときにわざとおいっていったのか。どちらにしても弥生人の食事のようすを想像するにはありがたい。



四角い家のなぞ

勝部遺跡で見つかった竪穴住居は床の形がま四角だ。縄文時代から竪穴住居はほとんどが円形につくられていたが、弥生時代のおわりごろになるとこうなってしまう。なぜだろう。また、このころから床のまわりに1段高いところがつくられる。料理や狩りに使う道具などをおく場所かもしれないし、人が寝たベッドのようなものかもしれない。この写真の住居では10cmぐらいの石がたくさんおかれてあった。とにかく、外国でも日本でもはじめは家の床は丸かったのに今ではみんなの家もま四角なのはふしぎだね。



ふしぎな溝

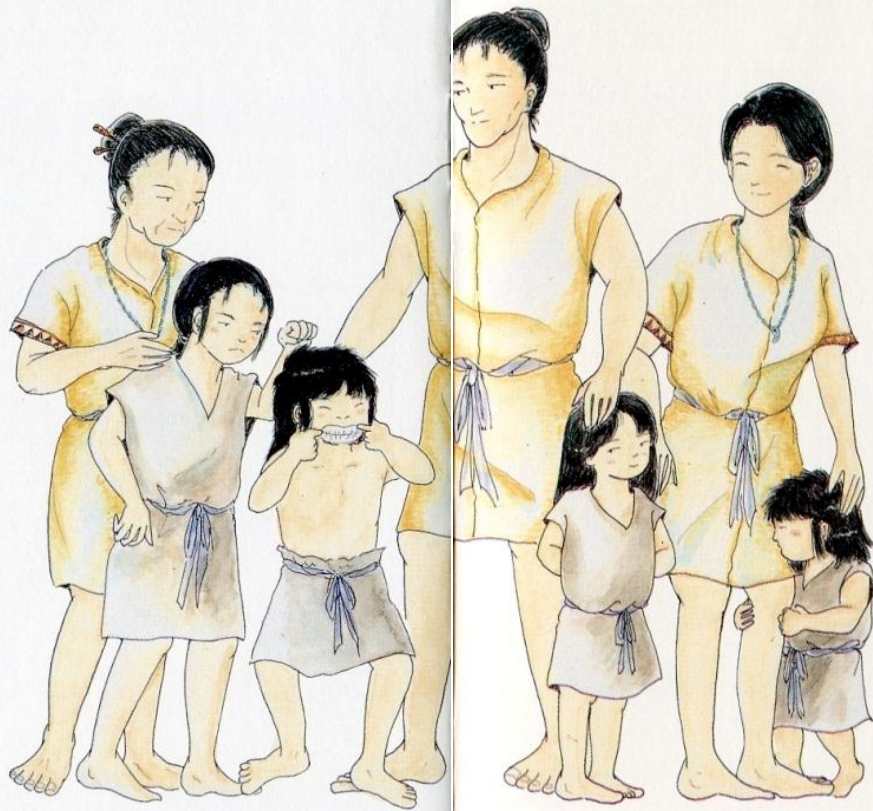
新免遺跡の竪穴住居にはふしぎな溝がある。床の一番外側をぐるっとまわった細い溝。実はこの溝にそって木の板をならべて打ちこみ、竪穴の壁が家の中へくずれてこないようにしたものだと考えられている。雨がふったときには地面からしみ出てくる水を外へ流す役割もかねていたらしい。弥生人の生活の知恵だ。上の写真にもあるぞ。

弥生人の家族



けんた
やよい
けんた
やよい
けんた
やよい
けんた

けんた そうか。田んぼでおコメをつくらったりするときも家族みんなできないもんね。
 やよい だから、きつと7人が8人はいっしょにくらしてたんだとおもうわ。
 けんた あかね、もしも火事になった家に土器が全部残ってたら、その数で人数がわからないかなあ。
 やよい うーん。さすがのやよい博士もわかんない。
 けんた ぼくは弥生人みたいなくらしがしたいな。
 やよい せまい家にぎゅうぎゅうでも？
 けんた そうだよ。日曜日に寝てるだけのお父さんより、いっしょにいられる方が何だか楽しそうだもんね。
 やよい ほたるまでいっしょなのはちょっといやだけど。



とよなかの弥生家族を想像する

残念ながら、とよなかでは当時の家族の人数を知るいろんな場所で発掘した結果、ムラの中には10軒程人、ふつうの家には5~6人がくらせるとすれば、ない。どんな名前のどんな人々がこのとよなかにくる寿命も今よりずっと短く、40才くらいでもうおとし

ために必要な知識があまりそろっていない。でも、度の家があることがわかった。大きな家で7~8とよなかには500人以上の弥生人がいたにちがいらしていたのか、知りたいものだ。当時の人々はよりになってしまうのだからびっくり！



やよい
けんた
やよい
けんた
けんた
やよい
けんた

やよい 弥生人が住んでいた家がどんなふうだったかはわかったわね。でも、何人家族で住んでいたのかしら？
 けんた やよいちゃんの家は何人家族？
 やよい お父さんにお母さん、東京の大学に行っているだけお兄ちゃんが帰ってきたら4人ね。
 けんた ぼくんちはね、えーと、お父さん、お母さん。妹のほたるとおじいちゃんだから5人家族だ。
 やよい 弥生人の方がもっと多かったんじゃないかしら。どうして？
 けんた だって今はわたしたちは学校へ行行って、お父さんだけが会社ではたらいてるでしょ。でも弥生時代なら家をたてたり、土器をつくらったり、狩りをしたり、みんな力をあわせなきゃできないことばっかりだもん。

弥生人の四季

くらべてみれば？

縄文人の四季



弥生人は本格的におコメをつくりだした最初の人々だ。だから生活もコメづくり中心になる。そして田んぼの世話をしないとだめだからそのすぐそばにムラをつかって1年中そこでくらすことになった。これを定住生活っていうんだ。縄文人の食べものプラスおコメ。これでゆとりができたのかもしれないね。今、とよなかではどんどん田んぼがへっている。でも、ぼくたち、パンも大好きだけどおコメのごはんをたべるとなぜかほっとする。2000年もの長い間、日本人をささえてきた食べものだから、体がおぼえているのかもしれない。これをむずかしいことばで「文化」っていうんだ。弥生人たちがせっかく教えてくれたコメづくりの文化をこれからも大切にしていきたいよね。

縄文人はおもに自然にあるものの中から食べものを選んでいて、これを採集生活というんだ。だから季節によって食べるものや生活のリズムは変わっていきってわけ。冬なんかは植物はないし、雪にとざされてけものをとるのも大変だ。こんなとき縄文人は秋までにたくわえておいた木の実などでおぎなっていたから生きていくことができた。最近では縄文人もイモなどを畑でついたり、コメづくりもしていたといわれているが、たくさんの人間を満腹にさせるほどではなかった。いつも食べものになやまされ、食べものがムラのまわりになくなると引越す大変な生活。縄文時代のおわりごろにコメづくりが広がるとすぐに日本中に広まったのもあたりまえだったのかもしれない。



壺 (高さ46cm)

甕 (高さ32cm)



粘土をとる

本町遺跡は穴だらけだった。これは土器をつくるための粘土をとったあとだと考えられている。ほんとかな。たくさんつくれるぞ。



木でできたスコップ

弥生時代には鉄で道具をつくることもできたが、まだまだ木や石の道具がふつうだった。田んぼをたがやす道具も木でつくったものが多かった。右の写真も木でできたスコップなんだよ。小曾根遺跡で見つかったもので柄のつけねの部分は植物のつるでかたく巻いてある。また、こわれたものは直して使っていた。これが弥生人のいいところ。君たち、使い捨てばかりしていない？



石の包丁 (長さ11cm)

石の包丁

石の包丁といっても料理に使ったわけではない。弥生時代の稲刈り道具(カマ)だ。穴にひもをとし、指でささえてイネの先をかりとった。どうして先だけをかりとったかって？弥生時代のおコメは実り方がふぞろいだったので、良く育ったものから順にかりとったからなんだよ。

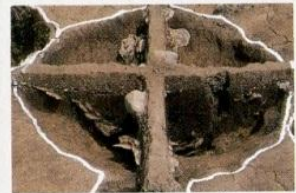


高杯

台付鉢 (高さ20cm)

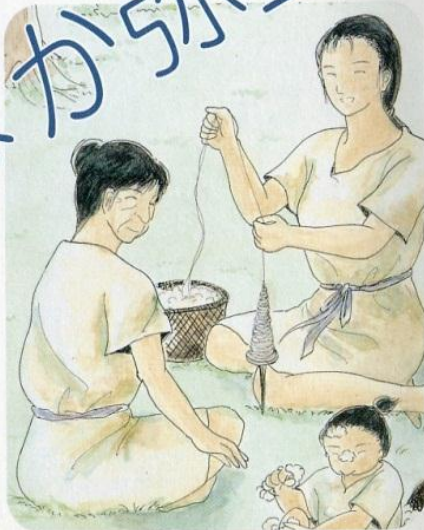
土器

壺は水やおコメをためておく。甕は煮炊きに使い、高杯や台付鉢は食べものを盛った。時代や場所によって形がかわる。文様のデザインもいろいろあるぞ。これは弥生時代の中ごろのものだ。



炉のあと

これは蛭池北遺跡の住居から見つかった炉のあとだ。焼けた炭やまっ黒な土がつまっていた甕をすえて煮炊きをするための土台の石が残っていた。いつも家のまん中で見つかる。今のいろいろのようなものだね。



石のキリ (左の長さ5.5cm)

服をつくる

服を作るには糸がないとだめだ。下の丸いものは糸をつむぐときにはぜったい必要な粘土を焼いて作ったおもり。服は布だけじゃない。皮も使う。皮や木に穴をあけるためのキリは石で作っていた。上の写真は石のきりだけと縄文時代のものとほとんど同じ作り方だ。

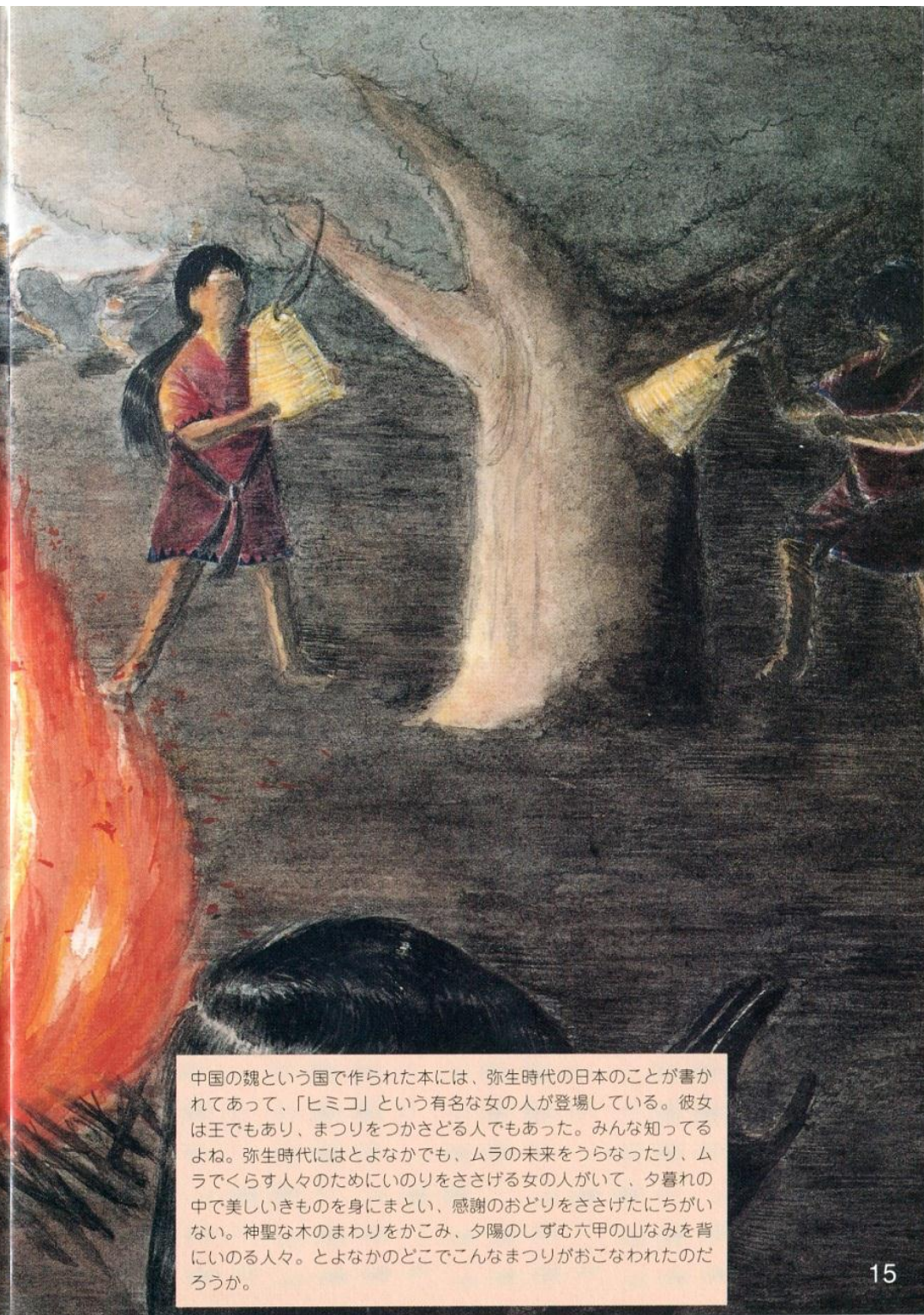
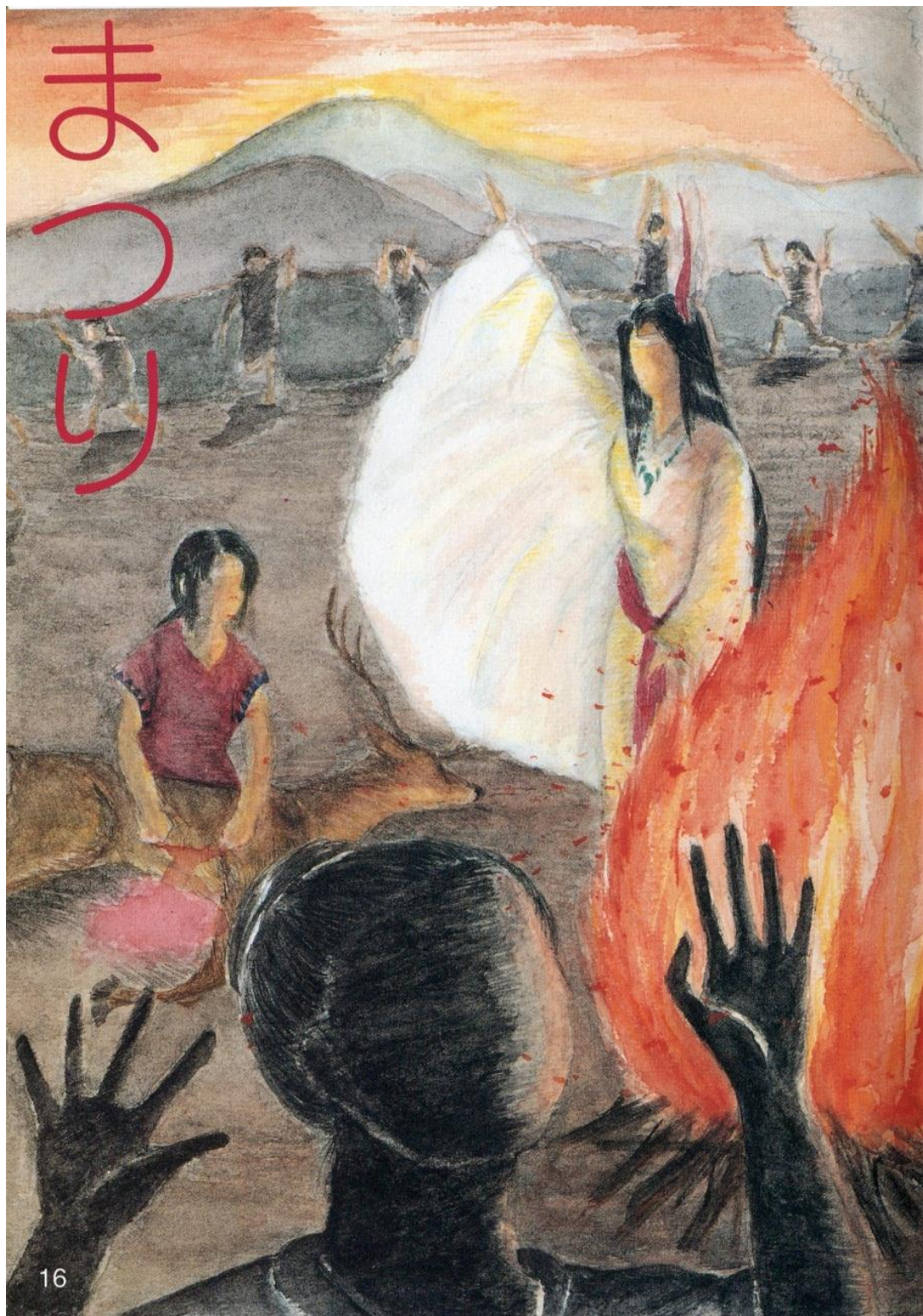


糸をつむぐおもり (直径5cm)



とよなか弥生ようらの生活雑貨

まつり



中国の魏という国で作られた本には、弥生時代の日本のことが書かれてあって、「ヒミコ」という有名な女の人が登場している。彼女は王でもあり、まつりをつかさどる人でもあった。みんな知ってるよね。弥生時代にはとよなかでも、ムラの未来をうらなったり、ムラでくらす人々のためにいのりをささげる女の人がいて、夕暮れの中で美しいものを身にまとい、感謝のおどりをささげたにちがいない。神聖な木のまわりをかこみ、夕陽のしずむ六甲の山なみを背にいのる人々。とよなかのどこでこんなまつりがおこなわれたのだろうか。

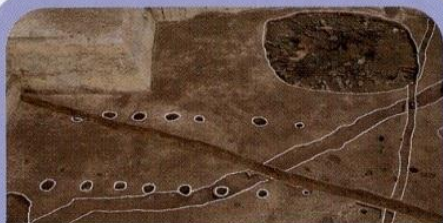


銅鐸の音色

銅鐸はムラの特別なまつりで使われた。今のつりがねのようなもので、棒でたたくとカーンカーンってものすごくいい音になるんだ。この音を神の声として弥生人たちは聞いていたのかもしれない。この銅鐸は岡町の原田神社の境内から出土したと伝えられているものだ。昔は金色に光っていたんだよ。表面には水が流れたような美しい文様が描かれてあった。コメづくりの技術とともに伝わった鉄や青銅を利用する技術はすぐに日本中に広まったけれど、たとえばこの銅鐸などはこのムラでも持っていたというのではなく、すごく貴重なものだった。きっとこの銅鐸を持っていたムラはとよなかでも一番大きなムラだったにちがいない。そして銅鐸はムラがどこかへ移動したり、ほかのムラといっしょになったりして、その役目をおえるとムラからはなれた場所にひそかにうめられてしまうんだ。原田神社には2つの銅鐸がいっしょにうめられてあったらしい。この大切な銅鐸を持っていたのは、いったいどのムラだったのかわかるかな？（銅鐸の高さ33cm）

顔のある粘土板

新免遺跡で見つかった粘土板には顔がほってあった。しかもイヤリングまでしている。これもまつりに使われたものといわれていて、いろんな形のいろんな顔がある。まつりの最中にこれを天にかざすとみんなは神が乗り移ったと考え、その声を聞こうと耳をすましたのだろうか。この顔のモデルはいったいどんな人なのかなあ。（顔の幅4cm）



住居と倉庫

箕輪遺跡では住居のすぐそばで倉庫が見つかった。手前にたくさんある穴が高床式の倉庫（たての長さおよそ10m）のあとだ。ムラのおコメは全部ここにしまわれ、みんなのものとして大切にされた。高床になっているのはしっけやネズミからおコメをまもるため。苦労してとれたおコメだからひとりじめしたくなっちゃうけどがまん、がまん。



小さな鏡

こんな小さな鏡をいったい何に使ったんだろう。写真に写っているのは裏側で文様が描かれている。どうやら古代の鏡は顔をうつすものではなく、この文様や鏡そのものに特別な意味があったらしい。日本が弥生時代だったころ、中国などでは青銅の鏡や武器などが大流行。これは山ノ上遺跡の竪穴住居で見つかったもの。中国の文字やデザインをまねて作ってあるがぜんぜん似ていない。海をこえて九州へ、そしてとよなかへくるにしたがってもとの形が忘れられてしまうみたいだ。（鏡の直径6cm）

けんた ねえ、かりいれたおコメはどうするの？
やよい 倉庫にいれるのよ。でもその前にみんなでおまつりをしなきゃ。
けんた 一年間、たっぷりはたらいたんだからうれしいうらなあ。
やよい そうじ当番をさぼっちゃうけんた君のことはとは思えないわ。
けんた ちえっ！
やよい 倉庫にたっぷりのおコメがあれば来年のとりいれまで冬だつてへっっちゃらよ。
けんた けんかなんかしなかったのかな？一人でいっばいたべたいもね。
やよい さあ、どうかしら。今度はそれから調べればいいわ。
けんた おもしろそうだね。

